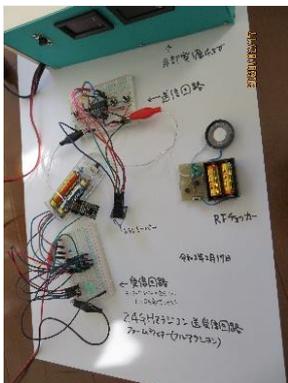


団体名	柿生おもちゃ病院
事業名	おもちゃ修理

目的・背景	事業の効果
<p>ボランティア活動としてお子様の遊びや知育、お年寄りの操作や音による介護動作の手助け、共遊玩具で目、耳等体の不自由な方の楽しみの手助け、そして会話と直った時の笑顔と喜びました、修理、再生によるリサイクルで資源の消耗を減らし、有効利用する、思い出と物と、こどもの夢を大切にすることを育むことで地域や社会に貢献出来るものと思います。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、おもちゃドクターと持ってきた患者さん(依頼者さん)とのコミュニケーションが 1000 時間以上で昨年度を上回る事が出来ました 2、368 個のおもちゃをリサイクルし資源の有効利用ができました又お子様、お母さん、お父さん、お年寄りの皆さんの思い出を生かす事が出来ました 3、新たに宮崎おもちゃ病院を開設できました、
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ol style="list-style-type: none"> 1、前年度は新聞報道と枳形、中野島の新規開設で修理台数 282 台今年度宮崎の新規開設と昨年度の影響から神奈川県内各地、都内からも依頼が来て修理台数が同等の 368 台となりました 2、宮崎おもちゃ病院を新規に毎月 1 回開催する事が出来ました 3、あーすぷらざでの重度障がい者のおもちゃ改造のおもちゃ病院にも参加できました 	<ol style="list-style-type: none"> 1、おもちゃドクターの高年齢や 3 年未満のインターンが 8 割でドクター数の確保と修理技術向上を近代化により確保する必要があります 2、開催場所毎に修理部品などの持ち運びを減らし荷物の軽量化を図る必要があります 3、小中学生向けに電子工作教室的な開催によりおもちゃ病院の収入源の一部を計りおもちゃ工作の面白さを周知する計画をしたいと思います



ラジコン回路をブレッドボードで仮に制作し回路の確認を行う* 助成金で購入



重度障がい者のおもちゃを使い易くする改造作業をするおもちゃ病院に参加



簡易オシロスコープで回路の動作確認を行い不良箇所を見分ける* 助成金で購入

団体名	小杉レストラン運営委員会
事業名	コミュニティレストラン～小杉レストラン～

目的・背景	事業の効果
<p>「食」を核にして、地域の人々の多様なニーズに合わせて、独居等の高齢者、小さな幼児を抱える親子、1人で食事をする子供たち等のこ食や栄養バランスの偏りを少しでもなくそうと、だれでも安心して利用できる「いこいの場」を設け、温かい手づくり料理を通して、世代間を超えた地域交流支援を推進する。併せて、活動を円滑に運営・推進するために新しいボランティアの育成を目指す。</p>	<p>会場がある地区は老人会がない。1人暮らし高齢者の会食会は開催しているが、地域に住む高齢者が集える場所が少なく、子育て世代や子供たちと触れ合う機会も極めて少なくなっている。「食」を通して、新しい住民と昔から住んでいる住民、様々な世代が気軽に集える場所として開催することで、地域社会での世代間交流・地域づくりを図るとともに、事業を支えるボランティア育成を支援していく。継続して開催することで中にはボランティアとして新たに参加する方も出ており、地域もおける新たな交流が生まれている。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>2019年度はレストランを10回開催。このうち、こども(18歳以下)は315名、大人290名の方々が参加。ボランティアは毎回10人以上が参加している。会場では0歳児から80代までの高齢者らが集い、手作りの温かいご飯を食べながら、多世代が交流する様子がみられた。一人暮らしの高齢者や子育て世代の家族、孫と祖父母らが来られる。「普段は野菜嫌いの子供もここでは全部きれいに食べる」といった声を頂いている。参加者からも果物や食材、お花等の寄付や差し入れを頂く関係性が築かれている。新たな交流が生まれるとともに、若い世代の新たなボランティアも増えており、地域社会での世代間交流や地域づくりにもひと役かっている。</p>	<p>開催が夕方から夜にかけての時間帯のため、日没が早い時期は高齢者の参加が少ない。開催日の天気にも参加者数が大きく左右されるため、準備や用意する食事数を予測するのが難しい。ボランティアとして活動に係る人数は増えているが、不定期参加のメンバーもあり、引き続き、新しいボランティアの確保に力を入れて行く必要がある。また、今後は開催会場が改修工事で使用不可になったことで、新たな会場確保が課題となっている。さらに毎回参加費も得ているが、資金の問題は引き続き課題である。今後再開する際は、材料費の抑制、寄付の呼びかけ等に取り組んでいく必要がある。</p>



親子連れでも友人たちと一緒に楽しく食事



地元農家栽培の野菜を使ったメニュー



乳児連れでも安心して食事ができる

団体名	くれよん
事業名	坂上広場あそび基地

目的・背景	事業の効果
<p>公園は、雨天や酷暑厳冬では過ごしにくく、子ども文化センターは、中学校区に1つであり、子文から遠方の地域からは利用しにくい。また、わくわくは、利用に際し事前に申請が必要であり、児童が自由に遊べる場所ではない。児童の自宅で友人を招いて遊ぶことについては、保護者不在時は原則不可という学校規則があり、久末地区では保護者が仕事などで夕方不在の家庭も多いため、自宅も友人と遊べるスペースではない。つまり、児童にとって、仲間と自由に遊べるスペースはかなり限られているという現状がある。そこで、本事業により、児童が自由に遊べる空間と時間を提供していきたいと考える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたち同士の交流が深まり、また大人との関わりの中で安心を得る。 2. 地域交流室の存在が周知され、地域の交流場所としての利用が促進される。 3. くれよんスタッフだけでなく、地域の方も巻き込んでいくことで、顔が見える関係が広がる。 4. 高齢者施設の地域交流室を子どもの居場所としての利用するという実績を築くことで、他地域で同様の活動が広がる可能性がある。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>参加者はのべ 272 人平均 8.7 人であった。 時間帯的に高学年は参加が難しく、昨年の常連層は参加できなくなったものの、新規に3年生2年生がポスティングしたチラシを見て参加。 そして、初参加の子たちがその後リピーターとなって参加することにもなり「愛着の形成」に成功したと考えられる。 子どもたちから「月曜日以外の日もやってほしい」「将来坂上広場みたいなところで働きたい」との言葉も聞かれた。チラシ経由で様子を見に来る親子もあり、保護者とのつながりも少しずつ形成されている。</p>	<p>受益者から収益を得ることが難しいことを実感したので、自立のための仕組みを考える必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付 ・協賛 ・フリーマーケットでの収益増 <p>を考えている。 仲間づくりの手法として、応援ナビかわさきの有効活用、ごえん楽市、どんなもんじゃ高津まつりのほか、まちづくりカフェたかつ、ごえんカフェなどに参加する予定。</p>



区内の君ひとみさんによる「つみきで遊ぼう」



樋ヶ谷工作倶楽部さんのトコトコWS



小学生企画：スライムづくり

団体名	すこやか卓球
事業名	子どもから高齢者向けのすこやか卓球教室の開催

目的・背景	事業の効果
<p>○経験豊富な指導者の指導により、部員相互の親睦をはかり、卓球を通じて、団体生活での規律・協調性・礼儀等を養うとともに、基礎体力の向上と卓球技術の向上を目指し、併せてスポーツ振興に寄与することを目的とする。</p> <p>○地域の子どもから高齢者まで気軽に参加できる親しみやすい教室を存続する。</p>	<p>○高齢者は子ども達とふれあうことで、生きがいを見つけられた。また「教えてもらうのは初めて」「よかった」「楽しい」の声が聞かれた。</p> <p>○子ども達は地域の高齢者達に声掛けをされたり、お菓子をもらったり、見守られて安心して運動して、すこやかな成長が見てとれた。</p> <p>○子ども達は、体が柔軟なうちに、神奈川代表の経験のある良いコーチに指導を受けられ、期待できる将来に向けて、基礎ができた。</p> <p>○子ども達の親も、助成金のおかげで、かなり安価で、かつ良いコーチに恵まれ、経済的にも助かった。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>○高齢者は子ども達とふれあうことで、楽しく1年間、ケガも無く継続できた。</p> <p>○子ども達は地域の高齢者達に見守られて運動して、すこやかな成長が見て取れた。</p> <p>○壮年の部は、この1年間、徐々に力を付け、試合でも納得できる、次につながる結果を残した。</p>	<p>○運営スタッフ陣が、自分の親の高齢化で、見舞いに時間を取られ、また、自分の子どもの他のおけいこ事の送迎に時間を取られて、運営のみに集中する事が困難になった。今まで以上に、分業して、結束、団結、協力していく事が課題である。</p> <p>○コーチが、広域から人が集まる卓球場の経営者で、そこに集まる高齢者の団体と打ち解けてすこやか卓球の活動を徐々に広げることができた。</p> <p>○子どもから高齢者の卓球大会の支援をすることで、活動の幅を広げていきたい。</p>



教わって「とても楽しい」そのことです



「ドライブの打ち方も教えてほしい」



80代女性が習っています

団体名	すみれミュージック
事業名	0 さいからの音遊び、おとももこどもも楽しめる音楽ワクワク便

目的・背景	事業の効果
<p>川崎市 14 万人に“音楽の喜びを届ける”をコンセプトに、0 さいから誰でも楽しむことができる体験型コンサートを実施した。</p> <p>川崎市は 2017 年まで過去 5 年間で人口増加 4.5 パーセント、小杉地区、新川崎地区の小学校新設と乳幼児、児童生徒数の増加も著しく、習い事としてのピアノ、音楽の人気もあり、音楽体験のニーズは高まっている。市内 2 校(洗足音楽大学、昭和音楽大学)や音楽の街かわさき推進協議会による活動も盛んではあるが、前述の大学卒業生や市内在住音楽家の演奏機会は十分でない。本事業を中心とした事業を継続的に行うことで、市の音楽文化をより活性化させる事を本事業の目的とした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼少期から多様な音楽に触れることによって、子どもの情緒を育み、生涯にわたり音楽を愛好する心を育てることができる。 ・ 地域の音楽コミュニティ、演奏家同士の交流の活性化を測ることができる。 ・ 子育て世代の交流の場の提供をすることができる。 ・ 市内音楽大学卒業生、市内出身音楽家への演奏機会を提供することができた。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>2019 年 12 月 15 日川崎市国際交流センターにて、同事業を行った。</p> <p>当日は約 100 組の親子が参加。</p> <p>2部形式で行い、1部は参加型のピアノワークショップ、2部は本格的な弦楽トリオのコンサートと、音楽付き絵本の読み聞かせを行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回より値上げをしたことで、発売当初のチケットの動きが遅かった為、コンサート周知方法をイベント検索サイトのみならず、様々なパターンを見出したい。 ・ 今回は大ホールでの演奏1回のみだったが、小規模のミニコンサートや定期的な講演などの開催も目指したい。



指揮体験



ピアノワークショップ



弦楽トリオと浦島太郎

団体名	みやまえエコー
事業名	音訳ボランティア

目的・背景	事業の効果
<p>今まで宮前区には、音訳ボランティアの活動団体がなかった。公的機関からの広報を含む文字情報を音声情報として届けることで、地域在住の視覚による情報入手に困難のある方々が日常的に感じている情報の時間的・量的・不足を補えるようになることを目的とする。</p>	<p>視覚による情報入手に困難のある方々に、宮前社協たより、宮前市民館だより、菅生分館だより、本の紹介を音訳し、タイムリーに提供することにより、情報の時間的・量的・不足の一部を補えた。</p> <p>養成講座を開催することにより、視覚障害者の現状を伝えることと共に、ボランティアの増員ができた。</p> <p>また、勉強会で講師から指導を受けることにより、リスナーの方からも、「読み方・編集の仕方などスキルアップし聞きやすくなった。」との声も届き、質の向上した音訳情報をお届けできた。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> ● 宮前社協たより(6、9、1、3月)に加え、宮前市民館だより(4、5、7、10、12、2月)・菅生分館だより(4、5、7、8、10、11、2月)と本の紹介を音訳し、タイムリーに提供した。 ● 養成講座(11/11,18,25)を開催し、8名参加、2名入会した。 ● 毎月1回の勉強会により、会員のスキルアップを図った。 ● 依頼のあった本の音訳をした。 ● 川崎アイ eye センターまつりで朗読ミニライブに出演。 ● 視覚障害者とボランティアの交流会、視覚障害者関東ブロック大会のボランティアに参加した。 	<p>広報では、イベントアプリの登録とチラシの配架で周知を図ってきたがまだまだ不十分である。今後は、今年度、専修大学との連携事業で製作した成果物を活用し、広報活動をしていきたい。また、高齢者施設へのPRも引き続き行っていきたい。</p> <p>また、勉強会を重ね、スキルアップを図ってきたが、音訳の有償の事業を展開するには、まだまだ至っていない。今後も勉強会を実施し、活動の迷いや問題を払しょくできるように力をつける機会を設けスキルアップをしていきたい。</p> <p>そして、養成講座の実施によりボランティアを増やし、活動の幅を広げることを検討していきたい。</p>



講習会



音訳CD送付



朗読ミニライブ

団体名	Physical Factory+
事業名	「運動」と「栄養」の大切さを専門家が地域住民に啓発する事業

目的・背景	事業の効果
<p>理学療法士や管理栄養士などの専門家が、青少年からシニアまで幅広い方々を対象に、「運動」と「栄養」をマッチングする事の重要性を啓発する事を目的とする。青少年や Jr アスリート・指導者に対して「心身の成長や食育」、シニアに対しては、「フレイル・ロコモ・サルコペニア・転倒予防」「健康寿命の延伸」に関する講座を実施する、講座、運動指導を通じて、市民の健康ベストコンディションとベストパフォーマンスを引き出す事に社会的意義があると考えている。</p>	<p>本年度は川崎市民総勢 650 名以上の方を対象にアウトリーチをする事が出来た。青少年から子育て世代、シニアまで幅広い参加者にむけて、食と運動に関する知識・理解の向上、健康・疾病予防に関する啓発活動が実施できた。</p> <p>5 段階評価における満足度調査でも、概ね 4～5 の高評価を得る事ができた。</p> <p>コロナウイルス騒動の影響で、年度末に予定していた体力測定や講演活動は全て延期となってしまったが、引き続き 2020 年度には自主事業として活動を継続していきたいと考えている。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>【青少年事業】 ①運動指導など: 20 回/年 ・保育園・小中学校、柔道クラブ等にて</p> <p>【成年・高齢者事業】 ・全 31 回開催 ・多くの参加者から満足・非常に満足の回答</p> <p>各方面から多くの依頼を頂き、昨年度に比べてより多くの方々にアウトリーチし、食と運動の大切さを啓発する事ができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の活動が評価され、各方面から予想よりも多くの事業依頼を頂き、活動を実施できた。 ・川崎市を中心に、横浜市から東京・千葉まで、様々な方面から活動の範囲が拡大している。 「かわさきから日本を健康に」をスローガンに、来年度も引き続き事業を継続していきたいと考えている。 ・昨年度と比較し、収益性の拡大が図れたので、代表以外のスタッフの活動機会を増やし、より継続的な事業に上げていきたいと考える。



メディア取材と新聞掲載



2019.11 百貨店屋上イベント



2020.3 食と身体作りの講演会

団体名	ニヶ領用水クリーンアップ協議会
事業名	ニヶ領用水クリーンアップ大作戦21

目的・背景	事業の効果
<p>ニヶ領用水竣工 400 年行事で、ニヶ領用水の一斉清掃を実施したが、その後行われていなかったのでニヶ領用水に関わる団体に呼び掛けて協議会を立ち上げて、ニヶ領用水の一斉清掃を実施して 3 年目である。各団体の協力及び専修大学の課題解決型インターンシップの学生が一丸となり一斉清掃を実施で来た。</p>	<p>関係団体の協力及び専修大学インターンシップの学生の活躍もあり相応の成果はあった。昨年に引き続き夏休みに実施して小学生にも呼び掛けた。稲田小の寺子屋関係でも参加する旨連絡があったが、熱中症等の関係で取止め等があった。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>一斉清掃当日は、8ヵ所・8団体で実施し、197 名の参加を得た。子供の数は、過去最高の 40 名であった。ゴミの数は、45ℓゴミ袋換算で 161 袋合った。 (参加人数の内訳) 多摩区 4 団体・124 名、高津区 2 団体・44 名 中原区 1 団体・18 名、幸区 1 団体・11 名</p>	<p>今年度は、場所によりばらつきはあったが、子供の参加が 40 名と多かった。 関係団体の高齢化が進んでいることもあり、早くニヶ領用水一斉清掃の定着を図って行きたい。 来年度は、オリンピックがあるものの夏休みに実施したい。</p>



子ども会の参加がありました。



社会福祉協議会協議会とのタイアップ



企業・行政・大学生の参加がありました

団体名	4丁目こども食堂の会
事業名	スペース4丁目こども食堂

目的・背景	事業の効果
<p>現代は、格差が広がり、子どもたちにとって生きにくい社会になっていると云われています。</p> <p>子ども食堂は、社会の格差を直接解決するものではありません。しかし、「スペース4丁目こども食堂」が、「あの食堂に行けば、温かく迎えてくれる人がいて、美味しい食事を食べることができる」というコンセンサスを得られれば、地域の居場所の一つになることができると考えました。ここで、子どもの出会いをきっかけに、地域の人がつながり、そのつながりが広がることで、孤食や孤立している子どもや大人たちに繋がっていくことを期待しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月2回ではありますが、地域の人々が子どもを中心に利用できる居場所になります。 ・ 孤食への対応につながります。 ・ 居場所を利用して地域の人たちのつながりが生まれます。 ・ 子育て中や次子妊娠中の人の休息場所になります。 ・ 自分の子ども以外の親子と接し、その様子を見ることで子育てについての学習機会になります。 ・ 食育の場になります。 ・ 自治体に地域の子どもの状況について具体的な問題提起ができます。 ・ 農家と提携しており、規格外の野菜を破格で提供してもらうなど、食品ロスを減らすことにもつながります。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月第1・3木曜日（1月第1を除く）年間20回実施開催しました。利用者の合計は709名です。スペースが限られるため、待ってもらうことが多いです。 ・ 参加者は幼児・小学生とその保護者が主。祖母と孫のペア、障害児を連れた母子もいました。保護者はほぼ女性です。母子家庭と名乗る人、見受けられる人の参加もあります。 ・ 広報活動・・・町内会でチラシの回覧。区見守り支援センター、社会福祉協議会、市民活動センター、子ども文化センターなどでチラシや通信の配架協力を得ています。様々な寄付や広報の協力など、支援者が増えています。・「スペース4丁目こども食堂」通信を発行。・フェイスブックでメニューの紹介や、様子を発信しています。・その他、ホームページも開設しています。 	<p>今後、こども食堂がどう発展していくのかは、社会との関係が大きいと考えています。しかし、引き続き食を通じて地域の居場所となり、新たなつながりが生まれる場となるよう努力していきます。</p> <p>今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生ボランティアの導入（前年度からの引き継ぎの課題）こどもと遊びの時間を共有できる学生ボランティアを考えています。 2. 事業の客観的評価：こども食堂を将来につなげていくためにも、事業の評価が具体的に分かるよう、方法等、考えていく必要があると感じています。 3. 地域のこども食堂と連携：情報交換等しながら互いに学びあう連携について考えます。 4. 事業継続のための経済的基盤作りを模索したいと思います。



食事だけでなく地域の居場所となっている。



定期的な運営会を開催。



地域のバザーに積極的に参加。

団体名	みんなのさいわい
事業名	NPO・地域団体へのプロジェクト型中間支援

目的・背景	事業の効果
<p>地域課題の解決を目指して活動している NPO・地域団体の基盤強化をプロジェクト型で支援することにより、社会貢献活動の広がりを促進する。</p>	<p>1. 支援先の行動変容</p> <p>① NPO シマフクロウ・エイド：作成した企業向け資料を活用して、複数の企業支援が開始されました。また、ウェブサイトのリニューアルによって、団体の新しい方向性が、明示されて、さらに次のステップ(地域自然循環で、共存の未来プロジェクト)に進まれました。</p> <p>② NPO Fine：助成金作成支援を行う中で、団体の見せ方に改善が見られて、40万円の助成金が自力で獲得できました。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>1. 支援先の募集を行い、3 団体へのプロボノ支援を完了しました。</p> <p>2. プロボノワーカーを募集して、累計 28 名の登録となりました。(今年の新規は、8 名です。)</p> <p>3. プロボノチームを 3 つ編制して、のべ 14 名のプロボノワーカーの参加を決定しました。14 名中 6 名は、川崎市民です。</p> <p>4. 2020 年 1 月から3つの新規プロジェクトが開始しました。</p>	<p>事業の課題</p> <p>1. 初めてのファンドレイジング支援を行いました。課題が見えてきました。</p> <p>① 団体のファンドレイジングの体制ができているかを評価する「アセスメントフォーム」が必要。</p> <p>② 団体の名刺を持って、助成団体や企業を訪問するファンドレイザーとのハイブリッドな活動が必要。</p> <p>2. 川崎市内の NPO 等にアプローチしましたが、支援先となるまでに至りませんでした。</p> <p>今後の展望</p> <p>ファンドレイジングの課題を解決するプロジェクトを 2020 年に立ち上げる。</p>



シマフクロウ・エイド チーム
(企業向け資料作成)



シマフクロウ・エイド チーム
(ウェブサイト作成)



Fine の担当者とチーム
(助成金支援)